

リニア沿線紀行

品川駅周辺、品川区・港区を歩く

～リニアが発発するところ・リニア工事の状況は～

リニア新幹線が開通すると出発駅となる品川駅。当地域の皆さまには品川駅とその周辺は余り馴染みのないところと言って良いのではないかと。新春企画として品川駅周辺の近況を報告する。

1. 駅の両側で異なる印象のまち

品川駅に降り立ったのは初めてだが、駅周辺の風景には既視感がある。それもそのはず正月の箱根駅伝では品川駅前の国道25号（第一京浜）を箱根に向けて疾走する選手を中継カメラがこの辺の風景とともに毎年映し出す。あの現場に立っているのだという感慨を抱く。

国道25号線は旧東海道。昔の写真を見ると東海道は、武蔵野台地の裾が緩やかに落ち込んだ先の海岸との境を通っている。明治になって鉄道が敷設されると、線路はその旧東海道と並行して波打ち際というか海の上を走る趣となっている。後にその海は次々と埋め立てられ、海岸線は後退していった。現在では品川駅から1 km余り先になった。

そのため品川駅の西口（^{たかなわ}高輪口）という、冒頭写真）と東口（「港南口」頁下写真）では街の印象が大いに違う。西側は駅から一段高いところにシティホテルが格調高げに聳えていたり、江戸時代からの歴史を感じさせる屋並みの住宅街やマンションが多い。高輪といえば赤穂四十七士が眠る泉岳寺は外せない。四十七士、主君浅野長矩公、同夫人らの墓塔を拝する。

これに対し駅の東側は、埋立地に高層ビルが建設されて整然としたオフィス街が形成される。通勤時間帯に駅から出た通勤者らの流れがいくつも枝分かれしてこれらのビルへと吸い込まれていく様は壮観だ。地図アプリで見ると、まず駅東地区の歴史の端緒となる東京都中央卸売市場食肉市場の広大な施設があり、他にNTT、ソニー、日本マイクロソフト、キャノン、コクヨ、といったわが国を代表する企業名を見ることができる。

2. 品川駅の賑わいと駅周辺の再開発

品川駅の全体での位置は、まずJR東日本の駅として1日当り乗降客数（国土交通省 国土数値情報データベース・令和3年度）は、441,860人でJR東管内の新宿、池袋、横浜、東京、渋谷各駅に続く第6位。またJR東海の新幹線駅として1日29,589人、因みに東京駅の新幹線同は65,467人となる。これに加え、京浜急行の駅として1日168,324人の実績がある。

このような鉄道交通の賑わいに加え、品川駅付近は再開発事業が猛烈な勢いで進められている。2020年品川駅から1 km弱、徒歩で15分程度の位置に山手・京浜東北線の新駅高輪ゲートウェイ駅が開業。ここにJR東日本により品川駅車両基地跡地の再開発が「国家戦略特別区域諮問会議を経て2019年内閣総理大臣による都市計画決定を受け」（JR東日本HP）で開始された。

現在は、第I期計画として高輪ゲートウェイ駅の周りに4街区の工事が進められる。再開発の内容はオフィスやホテル、コンベンション施設、共同住宅、店舗、インターナショナルスクールと保育所、店舗・レストラン等様々な計画。今後は品川駅方



品川駅西口（高輪口）からの風景
前の道路は箱根駅伝のコースとなる国道25号



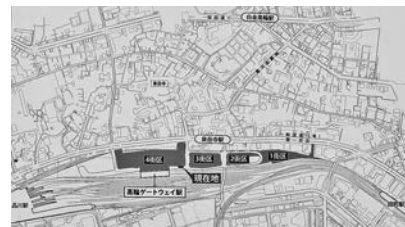
四十七士の眠る播州浅野家菩提寺 泉岳寺



品川駅港南口へ向かう通勤者等



高輪ゲートウェイ駅（左）と再開発現場



再開発の概要を示す表示板



品川駅東口（港南口） ペDESTリアンデッキが2階層で駅と接続され、各ビルへと移動できる

